令和８年度ネットリサーチ「がん対策」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- がんのリスクに関する意識について、「喫煙」、「飲酒」、「食生活（食塩）」、「体形（肥満・やせ）」及び「感染（ウイルス感染）」は、「がんのリスクを上げる」と回答した方が最も多い。一方で、「身体活動（運動）」は、「がんのリスクを下げる」と回答した方が最も多い。
- がん検診を受けた主な理由について、「定期的に受けることにしているから」が 47.3%で最も高く、「人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから」が 25.8%と続く。
- がん検診を受けやすくする効果的な取組について、「自己負担がなく、無料で受診できるようにする」が 42.5%で最も高く、「土日や祝祭日に受診ができるようにする」が 23.2%と続く。

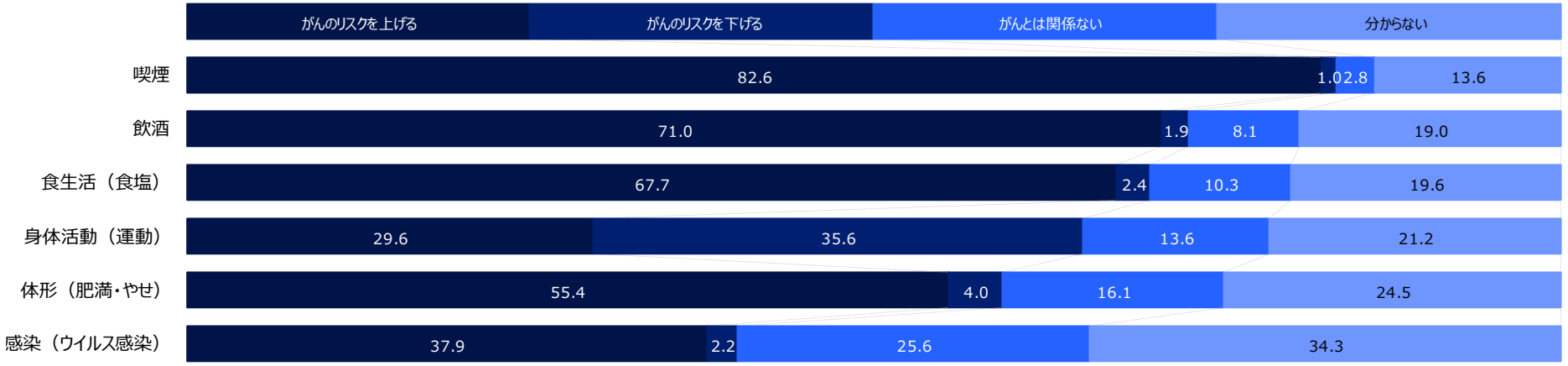
■調査結果の概要

1　がんのリスクに関する意識

✧　「喫煙」、「飲酒」、「食生活（食塩）」、「体形（肥満・やせ）」及び「感染（ウイルス感染）」は、「がんのリスクを上げる」と回答した方が最も多い。

✧　一方で「身体活動（運動）」は、「がんのリスクを下げる」と回答した方が最も多い。

Q1.あなたは、次の項目と、がんの関係についてどう思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



	n	がんのリスクを上げる	がんのリスクを下げる	がんとは関係ない	分からない
喫煙	100.0 1000	82.6 826	1.0 10	2.8 28	13.6 136
飲酒	100.0 1000	71.0 710	1.9 19	8.1 81	19.0 190
食生活（食塩）	100.0 1000	67.7 677	2.4 24	10.3 103	19.6 196
身体活動（運動）	100.0 1000	29.6 296	35.6 356	13.6 136	21.2 212
体形（肥満・やせ）	100.0 1000	55.4 554	4.0 40	16.1 161	24.5 245
感染（ウイルス感染）	100.0 1000	37.9 379	2.2 22	25.6 256	34.3 343

2　がん検診の受診経験

✧　「胃がん」について「１年以内」(21.0%)、「２年以内」(3.5%) 及び「２年より前」(12.3%) を合わせた［受診したことがある］は 36.8%となっている。

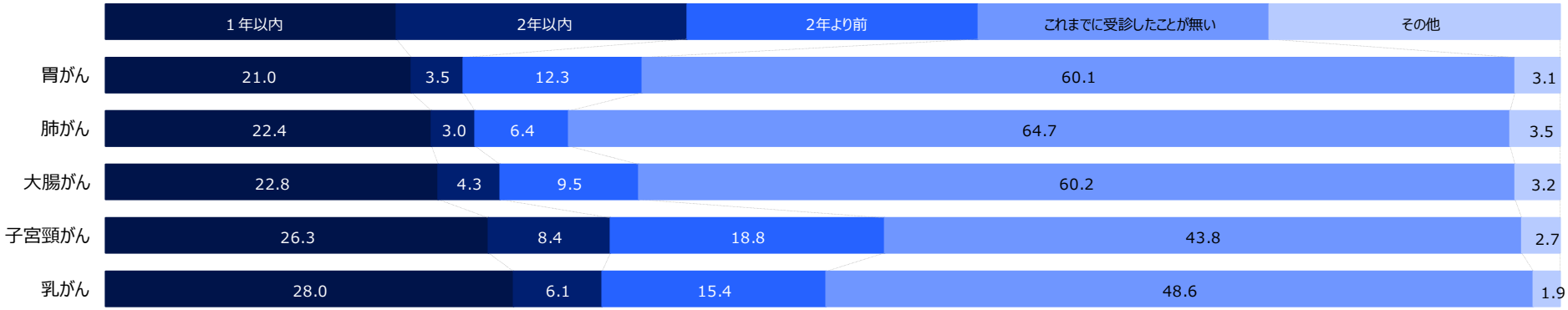
✧　「肺がん」について「１年以内」(22.4%)、「２年以内」(3.0%) 及び「２年より前」(6.4%) を合わせた［受診したことがある］は 31.8%となっている。

✧　「大腸がん」について「１年以内」(22.8%)、「２年以内」(4.3%) 及び「２年より前」(9.5%) を合わせた［受診したことがある］は 36.6%となっている。

✧　「子宮頸がん」について「１年以内」(26.3%)、「２年以内」(8.4%) 及び「２年より前」(18.8%) を合わせた［受診したことがある］は 53.5%となっている。

✧　「乳がん」について「１年以内」(28.0%)、「２年以内」(6.1%) 及び「２年より前」(15.4%) を合わせた［受診したことがある］は 49.5%となっている。

Q2.あなたはいつ、がん検診を受けましたか。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



	n	1年以内	2年以内	2年より前	これまでに受診したことが無い	その他
胃がん	100.0 1000	21.0 210	3.5 35	12.3 123	60.1 601	3.1 31
肺がん	100.0 1000	22.4 224	3.0 30	6.4 64	64.7 647	3.5 35
大腸がん	100.0 1000	22.8 228	4.3 43	9.5 95	60.2 602	3.2 32
子宮頸がん	100.0 479	26.3 126	8.4 40	18.8 90	43.8 210	2.7 13
乳がん	100.0 479	28.0 134	6.1 29	15.4 74	48.6 233	1.9 9

（参考）がん検診について

胃がん検診・・・バリウムによるレントゲン撮影や胃カメラなど

肺がん検診・・・胸のレントゲン撮影や喀痰検査など

大腸がん検診・・・便潜血反応検査（検便）など

子宮頸がん検診・・・子宮頸部の細胞診検査など

乳がん検診・・・マンモグラフィ撮影（乳房のレントゲン撮影）や超音波検査（エコー）など

【茨城県がん検診実施指針に基づく検診内容】

○胃内視鏡検査又は胃部エックス線検査・50 歳以上（胃部エックス線検査は 40 歳以上でも可）・2 年に 1 回（胃部エックス線検査は年 1 回でも可）

○胸部エックス線検査・40 歳以上・年 1 回

○便潜血検査・40 歳以上・年 1 回

○子宮頸部の細胞診・20 歳以上・年 1 回

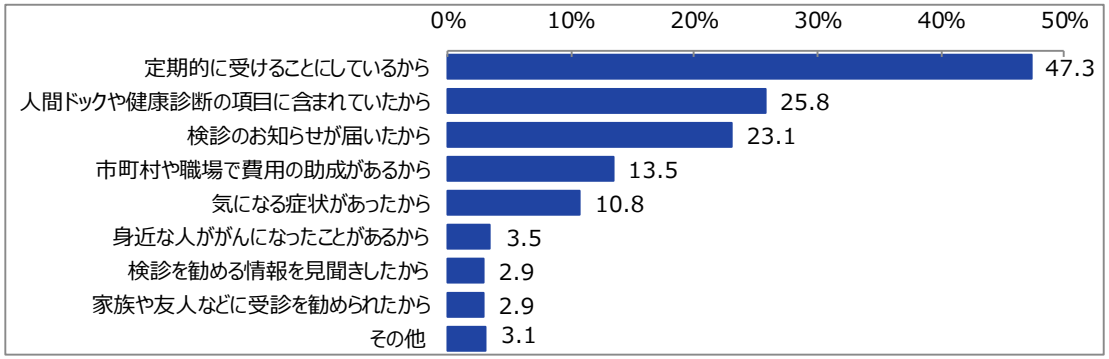
○乳房エックス線検査又は乳房エックス線検査＋超音波検査・40 歳以上・2 年に 1 回

3　がん検診を受けた主な理由

✧　「定期的に受けることにしているから」が 47.3%で最も高く、「人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから」が 25.8%と続く。

（Q２で「１年以内」「2年以内」「2年より前」と回答された方へ）
Q3.あなたががん検診を受けることになった主な理由はなんですか。次の中から最もあてはまるものを２つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	520
定期的に受けることにしているから	47.3	246
人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから	25.8	134
検診のお知らせが届いたから	23.1	120
市町村や職場で費用の助成があるから	13.5	70
気になる症状があったから	10.8	56
身近な人ががんになったことがあるから	3.5	18
検診を勧める情報を見聞きしたから	2.9	15
家族や友人などに受診を勧められたから	2.9	15
その他	3.1	16

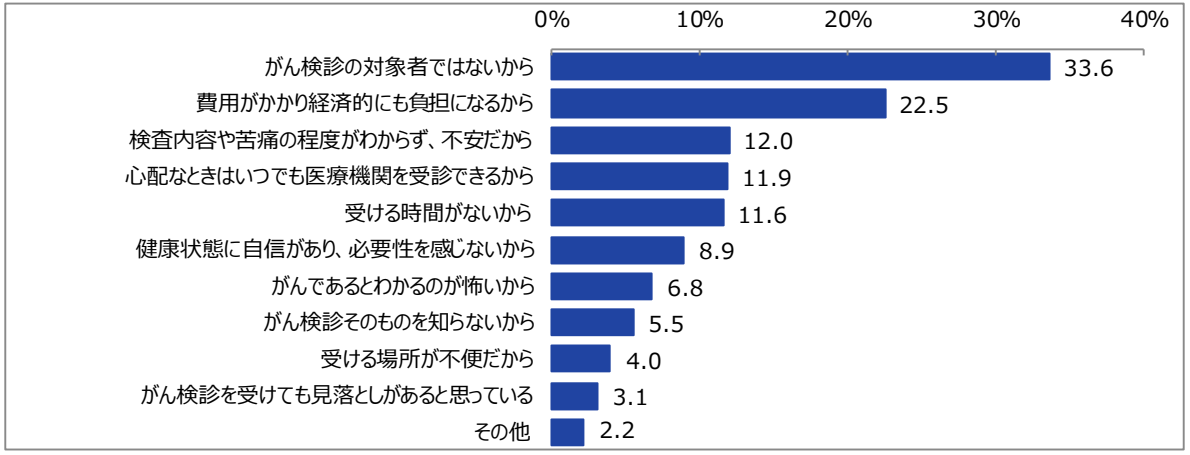


4　がん検診を受けたことがない主な理由

「がん検診の対象者ではないから」が 33.6%で最も高く、「費用がかかり経済的にも負担になるから」が 22.5%と続く。

（Q２のいずれかの項目で「これまで受診したことが無い」や「その他」と回答された方へ）
Q4.あなたが「がん検診を受診したことがない」や「その他」を選んだ理由はなんですか。次の中から最もあてはまるものを２つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	732
がん検診の対象者ではないから	33.6	246
費用がかかり経済的にも負担になるから	22.5	165
検査内容や苦痛の程度がわからず、不安だから	12.0	88
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	11.9	87
受ける時間がないから	11.6	85
健康状態に自信があり、必要性を感じないから	8.9	65
がんであるとわかるのが怖いから	6.8	50
がん検診そのものを知らないから	5.5	40
受ける場所が不便だから	4.0	29
がん検診を受けても見落としがあると思っている	3.1	23
その他	2.2	16

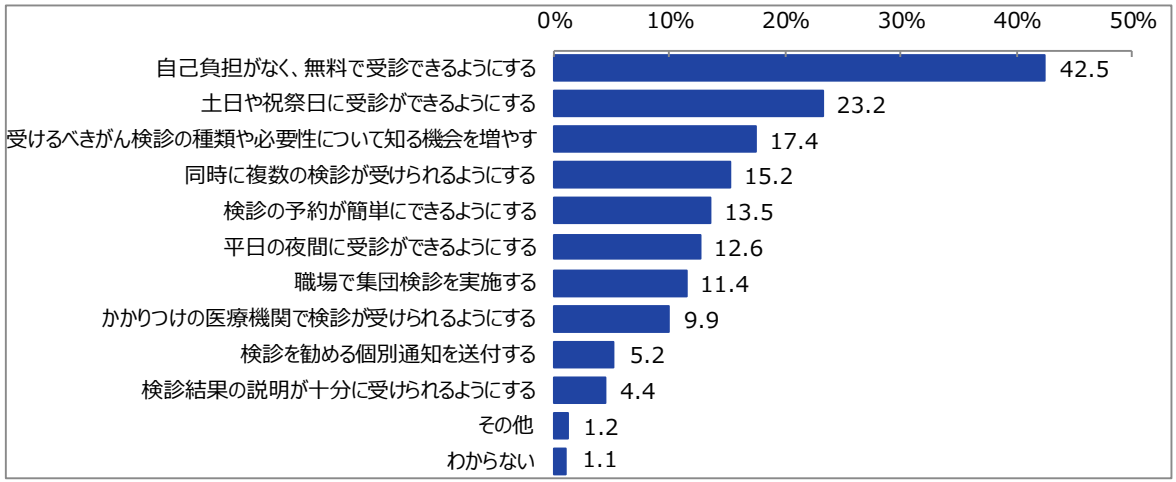


5　がん検診を受けやすくする効果的な取組

✧　「自己負担がなく、無料で受診できるようにする」が 42.5%で最も高く、「土日や祝祭日に受診ができるようにする」が 23.2%と続く。

Q5.あなたは、がん検診を受けやすくするためには、どのような対策が必要だと思いますか。以下の中から２つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
自己負担がなく、無料で受診できるようにする	42.5	425
土日や祝祭日に受診ができるようにする	23.2	232
受けるべきがん検診の種類や必要性について知る機会を増やす	17.4	174
同時に複数の検診が受けられるようにする	15.2	152
検診の予約が簡単にできるようにする	13.5	135
平日の夜間に受診ができるようにする	12.6	126
職場で集団検診を実施する	11.4	114
かかりつけの医療機関で検診が受けられるようにする	9.9	99
検診を勧める個別通知を送付する	5.2	52
検診結果の説明が十分に受けられるようにする	4.4	44
その他	1.2	12
わからない	1.1	11

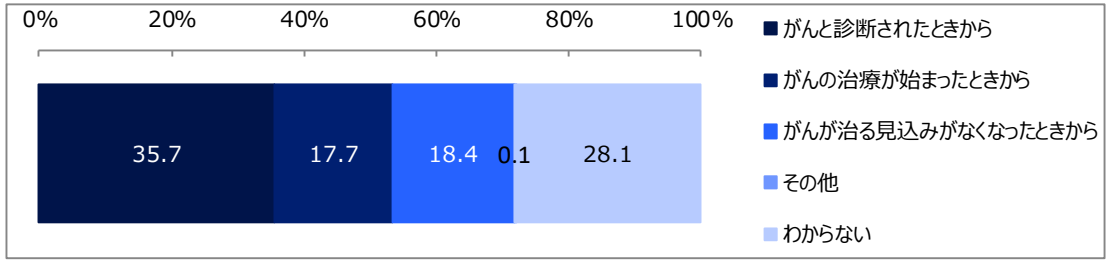


6　緩和ケアを実施すべき時期

✧　「がんと診断されたときから」が 35.7%で最も高く、「わからない」が 28.1%と続く。

Q6.がん診療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みをやわらげることですが、あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。以下の中から1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
がんと診断されたときから	35.7	357
がんの治療が始まったときから	17.7	177
がんが治る見込みがなくなったときから	18.4	184
その他	0.1	1
わからない	28.1	281



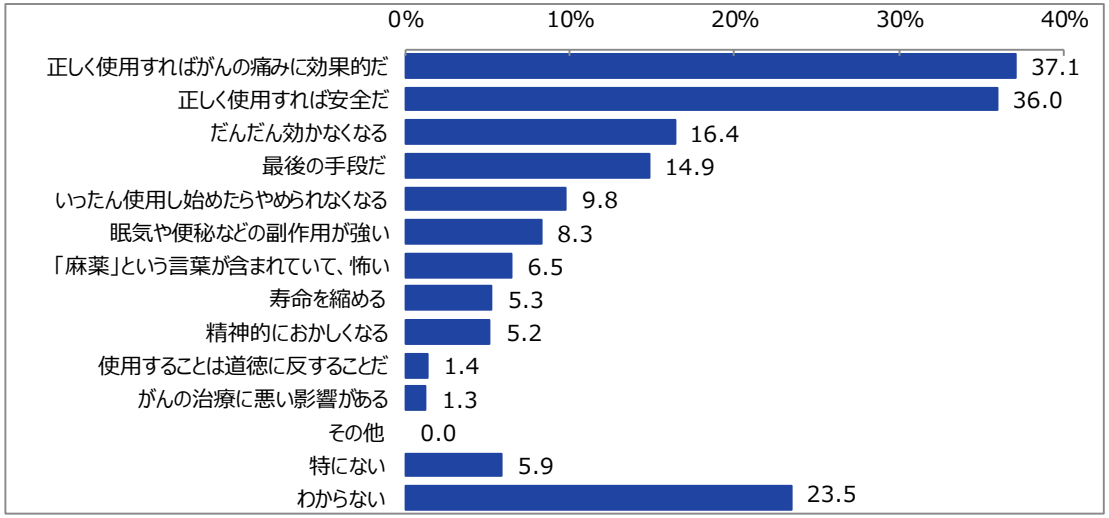
7　医療用麻薬に対する印象

✧　「正しく使用すればがんの痛みに効果的だ」が 37.1%で最も高く、「正しく使用すれば安全だ」が 36.0%と続く。

緩和ケアでは、がんなどの激しい痛みの治療などの目的で「医療用麻薬」（モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル等）を用いることがあります。「医療用麻薬」は痛みを伝える神経に作用して痛みをやわらげる効果があり、がんの進行度に関わらず、痛みの程度に応じて使用することができます。

Q7.このことを踏まえた上で、あなたは、医療用麻薬についてどのような印象を持っていますか。以下の中から当てはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
正しく使用すればがんの痛みに効果的だ	37.1	371
正しく使用すれば安全だ	36.0	360
だんだん効かなくなる	16.4	164
最後の手段だ	14.9	149
いったん使用し始めたらやめられなくなる	9.8	98
眠気や便秘などの副作用が強い	8.3	83
「麻薬」という言葉が含まれていて、怖い	6.5	65
寿命を縮める	5.3	53
精神的におかしくなる	5.2	52
使用することは道徳に反することだ	1.4	14
がんの治療に悪い影響がある	1.3	13
その他	0.0	0
特にない	5.9	59
わからない	23.5	235

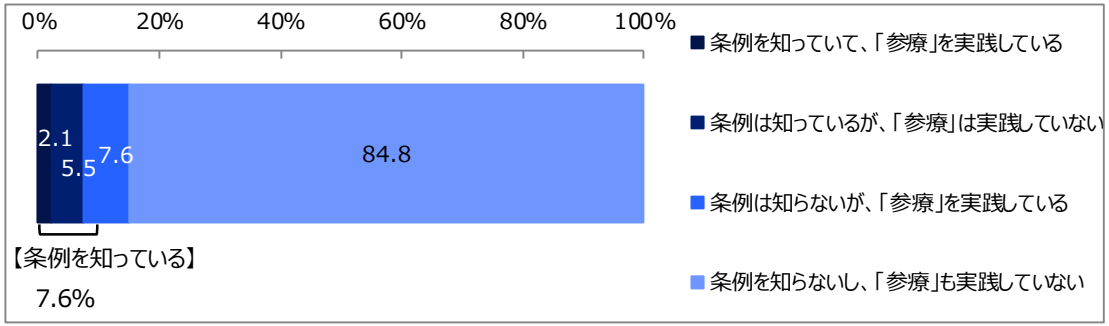


8　「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」の認知度及び「参療」の実践状況

✧　「条例を知っていて、『参療』を実践している」（2.1%）、「条例は知っているが、『参療』は実践していない」（5.5%）を合わせた【条例を知っている】は 7.6%となっている。

Q8.あなたは、「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」を知っていますか。また、普段からがんに関する知識を身につけたり、積極的にがん検診を受診するなどの「参療※」を実践していますか。次の中からあてはまるものを１つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
条例を知っていて、「参療」を実践している	2.1	21
条例は知っているが、「参療」は実践していない	5.5	55
条例は知らないが、「参療」を実践している	7.6	76
条例を知らないし、「参療」も実践していない	84.8	848



（※）参療とは

がん医療に主体的に参画することです。例として、情報サイトや新聞、書籍、研修会や講演会など、さまざまな機会を通じて、普段からがんに関する基本的知識を身に付けることなどが挙げられます。

「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」について、詳しくは茨城県ホームページをご覧ください。

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yobo/sogo/yobo/cancergrop/cacode.html

■調査の目的

茨城県では、「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」（以下、参療条例という。）の理念のもと、茨城県総合がん対策推進計画－第五次計画－（以下、県がん計画という。）に基づき、がんに関する知識の普及啓発やがん検診の推進等、様々ながん対策を推進している。

本調査は、県がん計画の進捗状況評価及び参療条例についての認知度確認を目的として実施する。

■実施概要

・実 施 期 間：令和 8 年 9 月 11 日～9 月 24 日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和 7 年 10 月 1 日現在）に基づく性別・年代・居住地（5 地域）の割合で割り付けた 18 歳以上の県民 1,000 サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		109	247	93	363	188	1,000
性別	男性	56	128	50	187	100	521
	女性	53	119	43	176	88	479
年代別	18～29 歳	17	43	16	72	35	183
	30 歳代	15	41	16	61	29	162
	40 歳代	21	52	19	78	39	209
	50 歳代	28	61	22	85	45	241
	60 歳代	28	50	20	67	40	205

県　北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県　央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿　行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県　南：土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県　西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

（注）

1．「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。

2．割合を百分率で表示する場合は、小数点第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

3．図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

4．男性 18～29 歳の回収件数は、「県央」「鹿行」「県南」「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性 30 歳代で「県央」5 サンプル、「鹿行」8 サンプル、「県南」10 サンプル、「県西」7 サンプルを超過回収、男性 40 歳代で「鹿行」1 サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。